

心の牧場 healthsoul



高島秀典

## もくじ

休息は体の復活から呼び覚まそう	p 1
心の経験	p 4
種	p 7
雲のような自分	p 1 0
人らしく	p 1 2
どん	p 1 4
学業が先か心が先か	p 1 6
思想	p 1 8
感謝と尊厳	p 2 2
本の注文	p 2 4
菜の花と菊	p 2 7
人を救うくらいの余裕	p 2 9
レインボー	p 3 1
真の人の道	p 3 3
文明人	p 3 6
この言葉	p 3 8
日本人	p 4 1
仕草	p 4 3
澄んだ泉	p 4 6
聖書	p 4 8
純粹無垢	p 5 1
キリスト	p 5 4
聖書が言っている闇とは	p 5 7

物語のよう	p 6 0
讚美	p 6 2
幸福感	p 6 5
永遠の川、イエスの泉	p 6 8
心の言葉	p 7 1
絵画のよう	p 7 3
純粹な文章	p 7 6
本当の姿	p 7 9
幸福	p 8 2
羊のように	p 8 5
創造性	p 8 8
言葉は本当に神	p 9 0
聖書の一節	p 9 3
新世界	p 9 6
主を崇めよう	p 9 9
無条件の愛	p 1 0 2
精神の種	p 1 0 4
眞実は	p 1 0 7
福	p 1 0 9
義を立てる	p 1 1 2
永遠の自由	p 1 1 5
日本	p 1 1 8
風の心地よさ	p 1 2 1
正しさ	p 1 2 4
理解こそが必要	p 1 2 7

信念を貫いて	p 1 3 0
何かを見付ける	p 1 3 3
愛しきもの	p 1 3 6
眼の当たりの真実	p 1 3 9
真実よ、永遠に	p 1 4 2
それだから人生	p 1 4 5
聖書に通ずる真実	p 1 4 8
真実の許し	p 1 5 1
心の蜜	p 1 5 4
力の限り	p 1 5 7
ダビデの真心	p 1 6 0
少しずつ	p 1 6 3
キリストの聖なる道	p 1 6 6
明日はこのように	p 1 6 9
人の和順	p 1 7 2
誤りなき魂	p 1 7 5
教える者	p 1 7 7
果ては永遠	p 1 8 1
信念	p 1 8 4
神の道	p 1 8 7
心の光り	p 1 9 0
自由の喜び	p 1 9 3
喜びの証し	p 1 9 6
神の日	p 1 9 9
この永遠の言葉に	p 2 0 2

平和の祈り	p 2 0 5
喜ばしき訪れ	p 2 0 8
人間の安住	p 2 1 1
僕のこの言葉	p 2 1 4
聖書は	p 2 1 7
明るい未来	p 2 2 0
悟りを発見	p 2 2 3
神の光り	p 2 2 6
一人一人の栄光	p 2 2 9
信ずべくもの	p 2 3 2
旧約聖書は生きている	p 2 3 5
神の言葉	p 2 3 8
永遠の愛	p 2 4 1
信じよ	p 2 4 4
大きな感謝	p 2 4 7
素晴らしい書物	p 2 5 0
主	p 2 5 3
永遠の環	p 2 5 6
平和の祈り	p 2 5 9
背かない態度	p 2 6 2
平等の真の意味	p 2 6 5
福音の門	p 2 6 8
義と思慮	p 2 7 1
慈しみ深い言葉	p 2 7 4
基	p 2 7 7

輝かしき魂	p 2 8 0
永遠の光り	p 2 8 3
生命を救う	p 2 8 6
幸せが見つかる	p 2 8 9

## はしがき

ラーメンばかり食べていた僕が店屋物をぴったりやめて別人となる。

人はふとしたことから変わることができる。

合うか合わないかではなく、変われるか変われないかです。

止めることは自粛となり、即自制につながる。

不思議なものですね。

この点に何か道を感じないでしょうか。

そう、精神への世界は開かれようものなら開かれる。

何か自分に返ってくる良いものがあるからの精神。

そういえなくもありません。

それは僕一人に限らないことではないでしょうか。

誰にも共通する。

そんな細くて長く美しい道。

自分を鍛えることの種は日常に幾つも沈み、隠れている気がする。

固定観念に縛られない心の自由。

生命を生かし、人を生かす力。

それはわれわれ平凡な人間達の夢でもある。

夢、正に生命力なのです。

力を振り絞って人間を生きて行こうではないか。

人生の主題となるものは人間。

時間を大切に人間を見つめ直して行きましょう。

心の牧場 health soul

## 休息は体の復活から呼び覚まそう

兎角、今の時代は心と個を重んじる傾向が強くなり、自助努力や堅実な努力に偏りがちな時代で、主としては日本の宗教心や社会学の精神修練の鉄則からすれば妥当な面もありますが、今の日本人は一直線に昇り過ぎたのかなという感が致します。

そんな現れも幾度となく口にはしなくとも人々は見て来たような気がします。

作家の執筆、創作活動と音楽活動とは全く異なる点が多く、根本的には信念がまるっきり違っていますから接点がなくとも当然なのですが、音楽家は非常に地味な暮らしぶりとその姿勢から精神を澄んだものにしようとする丹精込めた生き方が根となっている表向きの華やかさとのギャップがこれほど甚だしい職種も珍しいです。それに引き換え、作家は自分を十二分に表に出して、100%伝えようとする煮汁のような所があって、影の部分、要するに努力している時の姿はそんな感じで、いよいよ人々にお目見えする段階では文学という素朴で口当たりの良い繊細なものになってしまう。

作家と音楽家、これほど対照的な職業もないと言っていいでしょう。何だか二つ合わせると無色透明みたいで実体がアクアな感覚で気持ちが良い、アメーバといってもいいのか、そんな感じしませんか。こんなふうに職業一つ一つを取っても有りのままの姿は整然としているのですから個人主義とか堅実努力に固執してしまうのは世情として悲しい事実と思います。

人間って何かちょっとした傾向に偏って固執するともう、このようにしてイニユエンドゥーな自分になってしまう。

続きは  
完成版で  
お楽しみ下さい。